

## 三井金属 × アクセンチュア Digital Innovation SWITCH 導入

モノの流れをひとつのアプリの中で管理できるツールとなっています。(三井金属 馬場 智也様)

決められた手順で原料を投入したり、決められた製造方法で製造をしないといけない作業なのですが、それを SWITCH を見ながらどの順番で原料を使用するのか、どの原料を使用するのか記録しながら作業をするという使い方をしていきます。(三井金属 花北 稔様)

今までは工場の記録類をすべて紙で残しておりました。

原料を数十種類、数百種類の中から選び、そこから色々な原料を組み合わせでひとつの製品を作り上げていくんですけども、その過程で紙の記録を使っておりました。(三井金属 上野 高文様)

10 枚から 15 枚ほどの紙が毎日出て、ひと月となるとすごい量になる。(三井金属 馬場 智也様)

紙の記録を問題が起きた時に引っ張り出してくるのですが、なかなかそれが見つからない、原因がわからない、真の要因がわからない記録の段階でソリューションを使って入力してデジタル化していくことで、傾向として捉えたり、記録としてしっかり活用することに今後無限の可能性が出来たのではないかと思います。(上野 様)

一度使ったマニュアルはなかなか改訂されないのが問題点としてありました。それを今回の SWITCH に連結することによって、その場で必要なマニュアルにすぐアクセスできる。最新のものがすぐわかりやすい動画で見られる事は作業側としてもメリットがあると思います。(三井金属 山下 圭介様)

足の長い活動なだけに、これがいったいやがてどう繋がるのかという体感を得るのに時間がかかりました。短期的に「これだけやればこんな効果が出ます」と、なかなか言いづらかったところが困難というところではあったと思います。(三井金属 瀨本 真様)

工場内というのは色々な年代の作業者が働いているのですが、そのすべての作業者が自然と使えるようになるには、どんな項目が必要か、どんな風に作るべきかというのがまず課題でした。

割とすんなり受け入れていただき、直感で操作出来るものになりましたので、良かったなと思います。(花北様)

もし単体のプロジェクトであれば他のベンダーさんでもよかったのかもしれませんが、大きな土台を作るという事では、幅広い実績を持ったアクセンチュアと一緒に進められたことは非常に良かったと思っております。(山下様)

深い対話ですよ。デジタルイノベーションというものの理解を全体で深めながら、アクセンチュアには我々の中にしっかり入り込んでもらい、現場のみんなの納得感が出るような取り組みというのを少しずつ醸成していってもらいました。(瀨本様)

現場の困りごとを非常に引き出してもらえたかなと思っております。真の要因みたいなもの。アクセンチュアに効率的に困りごとを解決する方法はないかと探っていた。それが非常に良かったと思います。(上野様)

セラミックス事業部のものづくりというのは人が手作りで作っている、まさに勘・コツ・経験。「記憶で作る」から「記録でしっかり作る」、「その記録を使う・活用する」という事が重要だと見えてきましたので、いかに事業部内で水平展開するか、三井金属全体で広げることができると非常に力がつくのではと思っています。(山下様)

最新のこういったものを入れるノウハウみたいなところも吸収できましたし、納得感のあるものができたと思います。

今回はまだファーストステップだと捉え方をしておりますので、更に展開を広げて続けていくことが当社にとっての価値向上であるとか、広く言えば社会的貢献にも繋がる、そんなところにもデジタルを上手く活用していければなと思っていますので、引き続きしっかりと展開をしていきたいと強く考えています。(瀨本様)